

織姫☆彗星キャンパス通信かわら版 第8号

読書を通したコミュニケーションを増やそう！

「うちどく(家読)」は「家族ふれあい読書」の略語で、本をコミュニケーションツールとして家族がふれ合い、同じ時間を楽しく過ごし、家族の絆を深める取り組みです。子どもたちの読書の習慣を家庭にも広げ、家族で感想を話し合ったり、本を薦め合うことで、家族のコミュニケーションを深められたら、そんな思いから学校の「朝の読書」運動の家庭版として2006年に「うちどく」の推進がスタートしました。

うちどくのススメ

「うちどく」のやり方に特に決まりはありません。家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話してみましょ。ご家庭にあった「家読」のスタイルをつくってみませんか。

【うちどくの取り組み例】

- ☆家族で同じ本を読もう
- ☆うちどく(家読)の日、時間を決めて読んでみよう
- ☆読んだ本の感想をみんなで話し合おう
- ☆自分のおすすめの本を教えてあげよう
- ☆家族に本を読んであげよう

★読書習慣にはいろいろな効果があります★



♪家庭内でのコミュニケーションが増え、家族の絆を深めることができます。

学力が定着します

活字をしっかりと読むことで、学力の基盤となる読み書き能力や言葉の表現力を身につけます。集中力を高める効果もあります。

心を落ち着かせます

読書をしている時間の適度な集中力が脳をリラックス状態へ導き、緊張をほぐしてくれます。

想像力が豊かになります

読書は、描かれている内容を想像します。想像力が豊かになると、人の気持ちや共感する力もつきます。

様々な世界を体験できます

読んだ絵本や物語、小説の数だけ、本の中の世界を疑似体験できます。そうすることで、豊かな人間性を育てていきます。

絵本の読み聞かせ

【絵本は親子のコミュニケーションツール】
 ☆親子の幸せな時間を作るための道具
 ☆心の体験を共有すること ☆心の貯金

楽しい時間として
 生活の中に位置づけ
 きましょう。

＜お問い合わせ＞

小郡市役所

子ども育成課 医療・手当係

電話 0942-72-2111 (内線 673)

ファクス 0942-72-7481

Eメール syogai-katei@san.bbiq.jp